

会議録【全文筆記】

会議名称	令和6年度第1回米沢市行政経営市民会議																																		
開催日時	令和6年4月11日（木） 午後3時30分～午後5時00分																																		
開催場所	米沢市役所3階 庁議室																																		
出席者	<table><thead><tr><th></th><th>(委員氏名)</th><th>(所属団体等)</th></tr></thead><tbody><tr><td>委員長</td><td>神 原 祐 哉</td><td>神原法律事務所</td></tr><tr><td>委 員</td><td>青 山 浩 子</td><td>プラットヨネザワ株式会社</td></tr><tr><td>委 員</td><td>伊 藤 優 子</td><td>株式会社ニューメディア</td></tr><tr><td>委 員</td><td>岩 崎 令 子</td><td>米沢観光コンベンション協会</td></tr><tr><td>委 員</td><td>大 竹 茂</td><td>山形おきたま農業協同組合</td></tr><tr><td>委 員</td><td>杉 本 俊 之</td><td>山形大学</td></tr><tr><td>委 員</td><td>鈴 木 修</td><td>米沢信用金庫</td></tr><tr><td>委 員</td><td>高 橋 郁 子</td><td>学校法人松原学園 ひばりが丘幼稚園</td></tr><tr><td>委 員</td><td>田 中 明 子</td><td>米沢商工会議所</td></tr><tr><td>委 員</td><td>新 田 真有美</td><td>公募委員</td></tr></tbody></table>			(委員氏名)	(所属団体等)	委員長	神 原 祐 哉	神原法律事務所	委 員	青 山 浩 子	プラットヨネザワ株式会社	委 員	伊 藤 優 子	株式会社ニューメディア	委 員	岩 崎 令 子	米沢観光コンベンション協会	委 員	大 竹 茂	山形おきたま農業協同組合	委 員	杉 本 俊 之	山形大学	委 員	鈴 木 修	米沢信用金庫	委 員	高 橋 郁 子	学校法人松原学園 ひばりが丘幼稚園	委 員	田 中 明 子	米沢商工会議所	委 員	新 田 真有美	公募委員
	(委員氏名)	(所属団体等)																																	
委員長	神 原 祐 哉	神原法律事務所																																	
委 員	青 山 浩 子	プラットヨネザワ株式会社																																	
委 員	伊 藤 優 子	株式会社ニューメディア																																	
委 員	岩 崎 令 子	米沢観光コンベンション協会																																	
委 員	大 竹 茂	山形おきたま農業協同組合																																	
委 員	杉 本 俊 之	山形大学																																	
委 員	鈴 木 修	米沢信用金庫																																	
委 員	高 橋 郁 子	学校法人松原学園 ひばりが丘幼稚園																																	
委 員	田 中 明 子	米沢商工会議所																																	
委 員	新 田 真有美	公募委員																																	
欠席者	<table><thead><tr><th></th><th>(委員氏名)</th><th>(所属団体等)</th></tr></thead><tbody><tr><td>委 員</td><td>菊 地 智</td><td>山形銀行</td></tr><tr><td>委 員</td><td>岸 弘 行</td><td>米沢公共職業安定所</td></tr><tr><td>委 員</td><td>渋谷 文 男</td><td>連合山形置賜地域協議会</td></tr><tr><td>委 員</td><td>中 川 恵</td><td>米沢女子短期大学</td></tr></tbody></table>			(委員氏名)	(所属団体等)	委 員	菊 地 智	山形銀行	委 員	岸 弘 行	米沢公共職業安定所	委 員	渋谷 文 男	連合山形置賜地域協議会	委 員	中 川 恵	米沢女子短期大学																		
	(委員氏名)	(所属団体等)																																	
委 員	菊 地 智	山形銀行																																	
委 員	岸 弘 行	米沢公共職業安定所																																	
委 員	渋谷 文 男	連合山形置賜地域協議会																																	
委 員	中 川 恵	米沢女子短期大学																																	
事務局出席者	総務部長、企画調整部長、市民環境部長、健康福祉部長、産業部長、建設部長、会計管理者、上下水道部長、市立病院事務局長、教育管理部長、教育指導部長、議会事務局長、選挙管理委員会事務局長、監査委員事務局長、農業委員会事務局長、総務課長、財政課長、政策企画課長、教育総務課長、政策企画課長補佐、政策企画課経営政策主査、政策企画課主任（経営政策担当）、政策企画課主事（経営政策担当）																																		
会議次第	1 開 会 2 委員長あいさつ 3 議 事 （1）米沢市人口ビジョン（案）について （2）米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（案）について （3）米沢市人口ビジョン（案）及び米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（案）のパブリック・コメントの実施について （4）米沢市公共施設等総合管理計画のフォローアップについて （5）今後の財政見通しと推計方法について 4 閉 会																																		
会議資料	次第 資料1－1 米沢市人口ビジョン（案） 資料1－2 米沢市人口ビジョン（概要版）（案） 資料2－1 米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（案） 資料2－2 米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（概要版）（案） 資料3 米沢市人口ビジョン（案）及び米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（案）のパブリック・コメントの実施について 資料4 米沢市公共施設等総合管理計画のフォローアップについて 資料5 今後の財政見通しと推計方法について																																		

会議内容

【1 開会】

省略

【2 委員長あいさつ】

皆さんこんにちは。

委員長の神原です。

今日お集まりの委員の皆様は昨年からお変わりないと思いますので、大変頼りにしております。充実した議論ができればと思っております。

このような場では、議事録にも残りますし、委員から意見が出たという事実を作るだけでも有意義なことなのかなと考えております。

皆さん積極的に意見を出していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

【3 議事】

(1) 米沢市人口ビジョン（案）について

（資料1－1により事務局から説明）

委員

私の立場からいたしますと、やはり出生率が非常に気になるのですが、先ほどの資料の41ページの①少子化、人口定着への対応をするための課題・方向性の整理ということですが、ここの中の3行目の「10代後半から20代後半にかけての市外への流出が顕著であり、このような若年層の市外流出は、社会動態だけでなく、出生率の減少にも大きく影響しているとみられます」というところが、非常に目に留まりました。

やはり、出生率の減少に目が行きがちですが、それに伴っての様々な問題や課題がいろいろと生じているんだなということを感じております。

事務局

御意見ありがとうございます。

今お話がありましたとおり、10代、20代の市外流出、これが非常に大きな課題になっていると感じております。

こちらを抑制するために様々な今後施策というものが必要になってくると思いますが、そちらは、この後述べる総合戦略の中でも様々な取組を進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

委員

私も、同じページですが、さっき委員がおっしゃった項目の一番下のくだりで、具体的な支援策はいろいろ持っていらっしゃると思うんですが、これはあくまでも私の意見ですが、仕事の創出とか他から会社を呼んでくるとかいろいろな策があって、今まで行政でも努力なさって、今があるわけです。まず、地元の第一次産業というか、特に農業、私が農業をしているからというわけではないんですが、「孤育て」を防ぐ環境づくりという面で、やはり今は0歳児から保育ということが当たり前になっているわけですが、農業をやっていると、3世代、4世代の家族形態で、せめて3年保育で小学校に上げてやるような雰囲気づくり、地域づくりとまでは言えないでしょうけれども、農業をしっかりした産業に育てていく、そして憧れる職業にしていくということも、ある意味では、この少子化を少しでも食い止める、社会の中の1つの役割なのではないかとはいつも思っています。

じいちゃん、ばあちゃんからいろんなことを教えてもらったり、日本の大事な、つぼというか、そういうことも大事だと思うし、特に小さい子どもたちがじいちゃん、ばあちゃんと一緒に生活していると、やはり生活の知恵とか、いろんな文化を継承し、体で覚えていくというようなことも本当に大事だなと思ひまして、農業というものもしっかり見せてやれば、少しは人口減少を食い止められるのではないかなと私は普段思っております。

答えは結構です。

委員長

私から 1 点お聞きします。

36 ページ、37 ページの人口推計シミュレーションで、要するに基準となるデータがあって、そこから変数を変えていくと、このように抑えられますという図であると理解しているのですが、この変数を変えるに当たって、その変数を変えるための根拠は、例えば、この政策をやっている市と、この政策をやっていない市ではこう違うですとか、1 つだけでは正しいものは出ないと思うんですけれども、そういう類の何かしらの根拠があってこういう数字を打ち込みましたとか、こういう政策をやるとうなるので、こうやりたいですといった資料は、現状ではあるんでしょうか。

それとも、あくまでもこれは理論値を出したということなんでしょうか。

事務局

こちらの数字につきましては、あくまでも、例えば、他の自治体でこういったことをやったからこういった実績があって、それに基づいてというものではなく、あくまでも今回は合計特殊出生率をここでは最大 1.8 まで引き上げる、ですとか、社会動態の部分では、人口移動の部分で転入と転出の均衡を図る、ですとか、そういったものを設定したもので、機械的に作ったものになっております。

実際にどういった施策をすれば、これがどこまで上がるという具体的なものは持ち合わせておりませんが、様々な施策を組み合わせることによって、なるべくこの人口減少を抑制していきたいという見通しで出させていただいた資料になります。

委員長

ありがとうございます。

あと、個人的な意見なんですけれども、この出生率の話になると、どうしても子どもがいない、もしくは 1 人だとか、いい気持ちにならないという人は結構いると思うんですね。

ですので、なかなか全部丸く収まるというのは難しいとは承知していますけれども、間違っても、ちょっと差別の助長になるようなことのないように、ビジョンを作成するに当たっても、その辺は注意して、行政としてはやっていただきたいというのが私の気持ちです。

そのほかございますでしょうか。

委員

2 つありまして、1 つは 36 ページです。

これは平成 27 年からのデータです。

もっと前からのデータを実はお持ちで、もっと前から見ると、もうちょっと正確な予測ができないのかなと思ったんです。

そこはどうなんでしょうか。

事務局

こちらに表示しているのは、平成 27 年から今後に向けての推計を書かせていただいておりますけれども、実際にはこれより前の国勢調査から持ってきてますので、以前のデータを含めた上での推計ということでは

御理解いただければと思います。

委員

以前のデータで、出生率がこれぐらいというのは、もう出ているデータがあるわけですね。

そのデータを使って統計を取ったのが、どれかに当たるということなんでしょうか。

希望的観測で 1.8 とかというのを、シミュレーションとして入れるのはありだと思うんですけども、過去のデータからさかのぼった実態に近いものはどれに当たるんですか。

事務局

②の社人研のデータというのが一番それに近いものかと思います。2050 年までの推計になりますけれども、53,112 人と書いてあるものがその推計になります。

委員

なるほど。

そうすると、これが、どちらかという、今までのデータから確実にそうだという数字で、この 53,000 という数字の持つ意味がちょっと分かりません。

どの辺の人口がレッドゾーンになるのかというのは分かりますか。

要は、このままだと令和 47 年には半減という形になる。

半減したら税収の問題などで多分やっていけないと思うんですけども、そのもっと前にどこかにレッドゾーンがあるような気がして、この辺をどのようにお考えですか。

事務局

レッドゾーンという考えは今のところ定めておりません。

おそらくこの 53,000 人という社人研の推計に近い推計だと、令和 47 年には 38,000 人台とか 39,000 人台まで落ち込むだろうという予想が、社人研推計に近いものになるのかと考えております。

ただ、実際、税収は、人口は下がっていますけれども、あまり変わっておらず横ばいにもなっていますし、どこまで人口が減少すると税収に影響があるかといったものは見通せない状況ではございますので、レッドゾーンは今のところ設定していないという状況でございます。

委員

そうすると、人口をシミュレーションするのは、どういう意図があつてやっているんですか。

事務局

こちらにつきましては、先ほど申し上げました、例えば合計特殊出生率ですとか、社会的な移動の部分ですとか、そういったものを改善させることで人口減少がここまで抑制できるんだというものを、あくまでも見通しということで出しているものになります。

(2) 米沢市デジタル田園都市構想総合戦略(案)について (資料 2-1 により事務局から説明)

委員

非常に盛りだくさんの内容で驚きました。

率直な感想なんですけれども、2 点ございまして、外国人向けの日本語教室を計画しているということだったんですが、先般たまたま市内の福祉事業所にお邪魔して聞き取りをさせていただいたところ、今結構市内の福祉事業所でもモンゴルとかベトナムから外国人の方を雇用しているらしいようです。

やっぱり困るのが、日本語のようで、日本語が全く分からなくて米沢市に来ている方も多くて、仕事をしながら少しずつ覚えていくような状況なんだそうです。

中には失敗事例もあるようでして、そういったところを、まず事業所同士でいろいろ情報共有したいというようなお話がございました。

やはり日本語を教えてくれる、そういった機関があれば大変助かるというようなお話もございましたので、ぜひ、そういったところは進めていただければなと思いました。

それから、基本目標の3番目の結婚・出産・子育ての希望をかなえるという部分でございますけれども、これも先般、市内の高校の先生とお話をさせていただいた際に、特にコロナ禍ということもあって、最近の高校生、そしてコロナ禍を経験した大学生は、結婚に全く興味がないというようなことなんだそうです。

親戚のお姉ちゃんが結婚して、結婚式に出るというような機会も全くないし、ウェディングドレスへの憧れとか、そういったものも全然なく、大学生は、お一人様が楽で、異性との関わりを持ちたくないというようなことで、結婚に対する考え方が以前とは全く違っているというようなお話をお聞きしました。

米沢市では婚活支援事業もやられているようですけれども、割とそういった若年層向けの「結婚っていいもんだよ」というようなことを我々大人世代が教えていく、いろんな機会を捉えて言っていかななくてはいけないのかなと思ったところです。

ちょっと感想になりましたが以上です。

委員長

それではお答えいただく前に、私から1つ御紹介をさせていただきますと、米沢市国際交流協会というところで日本語教室もやっておりまして、私一応、理事をしておりますので、宣伝をさせていただきます。

そのような点についてお願いします。

事務局

委員長にも理事をしていただいている米沢市国際交流協会は、文化センターの1階に事務所を設けております。

そちらで日本語教室を今までもやっていただいておりますけれども、今年度からさらに市でも少しお金を用意して、日本語教室を拡大していく取組をやっていききたいということで今調整をしているところであります。

あと、多言語化といったときに、相当、いろんな国籍の方が米沢にいらっしゃるようで、どこまでできるかが難しいなと思っているところです。

委員がおっしゃったとおり、ベトナムから来ている方もかなりいらっしゃるということで、日本語教室だと、教える側が人材不足らしく難しいという話も聞いています。

また、生活に対する最低限の知識をベトナム語に翻訳してあげるといった作業をまずはやっていきたいなと思っています。

これからも国際化が進んで、外国人の方が米沢市にかなり来られる状況になっていくのかなと思いますので、そういった対応はしっかりしていかなければいけないなと思っています。

あと2つ目、結婚に関する意識の改革ということで、これは本当にそのとおりだなと思っていまして、なかなか結婚したいという気持ちが少なくなっているというところは、私も感じております。

また、多様性の時代の中では、そういった選択も当然あるということですので、委員長からも冒頭ありましたが、そういう差別に繋がるようなことはもちろんできないので、そういった中であるべく

結婚して子どもを生みたいとか、米沢市としては、そういった希望をかなえていくということと、あと意識の啓発は必要ですので、そういった紹介をしながら、若い人たちに結婚に対して夢を持ってもらう取組はやっていきたいと思っているところでございます。

やはり、結婚して子どもを生むという、日本の場合ですと、そういった伝統が強いので、結婚が少子化対策の1つの大切なところだなと思っています。

そういったところにしっかり取り組んでいきたいと思います。

委員

基本目標1の地域産業の活力というところで、目標値4,500億円を設定し、新しい団地の整備ということで進んでおられるかと思いますが、その中で、(仮称)地域産業振興センター整備事業というのはどのようなものなのか、ぜひ具体的に教えていただければと思いました。

それと、3番目の「結婚、出産、子育て」というところになりますけれども、データの中で3世代同居が減っているということですが、どうしても若い親御さんのところに対しての補助だったり、手助けだったりというのは手厚くいくように一生懸命やられていると思うんですが、逆に目線を変えて、3世代同居を促すような施策というのがあるれば、もしかしたら人口減少の歯止めにもなるのかなと考えもしましたので、ぜひどこかの機会を考えていただければと思っています。

もう1点、倫理感というところで、お子様に米沢の良さを言うのですが、逆にも、逆に今度我々世代も、よく子どもに言うのが「自分の人生なんだから好きな道を行け」とか、「東京に行きたかったら行っていいぞ」ということを簡単に言うところがありますので、自信を持って米沢に帰ってこいと言えるように、逆に、我々世代を教育していただいて、自信を持ってお子さんに対して、米沢に帰ってこいと言っていたきたいというようなアナウンス的なところもやっていただければと思いますので、ぜひその辺よろしくお願いいたします。

事務局

初めの地域産業振興センター整備事業ですが、この計画自体、商工会議所が今計画されております、ナセBA、図書館の東側にある町中の空き地に今、商工会議所が新しい会館の整備を御検討されています。

その商工会議所会館の中に1つの機能として、地域産業振興センターの機能を設けられるという計画で、その基本構想の座長が委員長ということで、私が申し上げるのも何なんです、少し御紹介させていただきますと、地域の様々な業種で人手不足が顕在化している中で、地域として労働人口をどのように確保していったらいいのかとか、様々な業種がある中でワンストップ型のサービスを支援していくとか、そういう地域の産業を総合的にサポートするセンターをこの会館の中に機能として盛り込むというようなこととお話をお受けしている、そういう事業でございます。

よろしくお願いいたします。

事務局

2つ目の3世代同居を促すような施策ということで、こちらは非常に大事な施策だなと私も思いました。

どういった取組ができるのか、またほかのところでどんな施策があるのかを調べながら、そういった取組についても、今後追加していきたいなと考えたところです。

あと3つ目の胸を張って帰ってこいというそのアナウンス、その部分については、これから、市長の好循環の米沢という取組の中で、子ども

を生んで育てやすい環境をまず作って、そこから今度若者に魅力的な雇用の場を作って、残ってもらったり、あと帰ってきてもらったりだとか、そういったところで税収が増え、そのお金を今度、市民の暮らしやすいまちづくりに使っていくという、それが好循環の米沢に繋がっていくという構想になっているわけですが、そういった取組を合わせて、情報発信して、若い人たちに帰ってきてもらう、また、地域の人たちから、子どもたちに帰ってこいという呼びかけをしてもらおうという、その情報発信が非常に大事だなと思いますので、そういったところをしっかり取り組んでいきたいなと思います。

委員

基本目標 1 に載っている新しい産業団地について、もう少し具体的に、今どういう状況で、将来どういうことをやりたいのかということの説明いただきたいということと、あと以前のこの会議でも若干話しましたが、除雪車運行管理システムについて、もう少し分かりやすく教えていただきたいと思います。

事務局

まず新しい産業団地についてですが、市内にあります八幡原中核工業団地、こちらが一昨年度に全て分譲用地が完売し、現在 68 社が操業しております。

また、米沢オフィス・アルカディアにつきましては、現在 22 社が操業しておりますが、残っておりますのは 6 区画で、約 3 ヘクタールあまりの土地が残っておりますが、ほぼ飽和状態となっております。

そこで、現在様々な内外の企業から立地の御相談をいただいておりますけれども、なかなかそれにお応えできていない状況があります。

このようなことから、新たな雇用機会を確保する上でも、様々な業種を集積させて、力強い産業基盤をつくる上でも、新たな産業団地の整備が必要だと考えております。

現在、一昨年度からその適地調査を進めておまして、新年度に、具体的な場所といいますか、エリアを設定できないかということで現在進めているということでもあります。

もちろん多額の経費もかかりますので、財政状況も十分踏まえながら進めていきたいと、そういう状況です。

事務局

除雪車運行管理システムの現在の状況をお話しさせていただきたいと思いますが、現在この内容については検討中ではございますけれども、アウトラインが決まっておりますので、その内容について御説明させていただきたいと思います。

現在の除雪状況については、事業者の皆さんが除雪をし、その作業日報をアナログで書いていただいて市に提出するというような形になってございますので、そういったところをワンストップで、全てGPSでデータなどをとりながら、それを一元化してデータですぐ市に共有するというところと、その精算も自動的になるというようなシステムを考えております。

さらには、除雪状況の見える化ということで、除雪車がどういったところを何時何分に除雪したかということも分かるようにしていきたいと考えておまして、それを、市民の皆さんに情報発信することによって、この路線についてはもう何時間前に除雪したと、そういったところを分かるような形で市民に公開していきたいと思っております。

その上で、やはり大雪などになりますと、この路線が何時間前に除雪をしたということが分かりますので、そういったところを瞬時に判断い

たしまして、次の除雪をいつから出せばいいかが分かるように運行管理システムを導入して、効率化を図っていききたいというのが大体のアウトラインでございます。

付加した内容では、今後いろいろ事業化をしていきたいと考えておりますが、その点についても検討中というようなことです。

委員

ありがとうございます。

除雪も、車の通行量とか、市内や郊外とかいろいろ条件で違うわけですが、除雪をしている業者あるいはオペレーターにとってやりやすくなるのかどうかも含め、市民の目線もちろん第一に考えていただかなくてはならないわけですが、その上で、デジタル的にやっていただきながら、市土木課を中心にパトロールをもう少し強化して除雪をしていただきたいとか指示を出していただけるような体制について、今は東西南北のブロック長を中心に各業者に連絡を取っていただいているわけですが、本当に除雪体制が良くなることが大事な目標だと思うので、ぜひよろしくお願いします。

事務局

御指摘のとおり、デジタル化だけできめ細かな除雪ができるかということではなくて、やはりデジタルも含めて、先ほど委員からあったとおり、そういうパトロールなどのアナログの部分も含めながら、しっかりとそういったところができるように今後考えていきたいと思います。

委員

網かけ部分を見させていただいて、かなり意欲的に取り組まれるということで、何かすごく、見ていて安心したというか、頑張っていたきたいなという気持ちになったと同時に、市役所の職員の方がちょっと過労で倒れるんじゃないかと思ってちょっと心配なんです、その辺は大丈夫なんですか。かなり意欲的に取り組まれるということで、とても感心しております。頑張っていたいただければと思います。

質問が2つあるんですけども、1つは「県立中高一貫教育校の実現に向けた検討」というところで、これは今回の令和9年度までにどうするかを決めるというような感覚なんでしょうか。もうやることは大体決まっているんですか。

その辺のタイムスケジュール的なところ、すごい重要な施策だと思うのでちょっとお伺いしたいというのが1つあります。

お願いできますでしょうか。

事務局

ありがとうございます。

中高一貫教育校につきましては、県が令和7年度と8年度に市内の高校の再編を検討する中で一緒に検討してほしいということで、それに向けてやはり米沢市として、どういう高校の組合せがいいとか、どういう中学校と高校の連携にしていくのかとか、あと場所をどうしていくのかとか、そういった米沢市としての考え方を整理した上で、それを市民の方と共有していくという作業を今年度からやっていかなければいけないなと思っておりますので、まだ具体的なプランニング、考えまでは至っていないんですけども、そういったところをこれからやっていくということで御理解いただきたいと思います。

委員

イメージとして、大きい中学校と高校を作る、新しく作るというイメージとは違う感じなんですか。

要は、今ある中学校・高校の再編をするみたいなイメージですか。

何か大きい建物がどこかに新しくできるのかなとも思ったんですけども、そういうものではないのですか。

事務局	建物に関しては、おそらく今ある高校の校舎を使うといった選択も当然入ってきますし、全く新しい建物を建てるなんていう可能性があるのかどうかというところもありますけれども、それはまだ分かりません。 あと中学校についても、今3つの中学校に最終的には再編するという事で米沢市では計画しておりますけれども、それとは別の中学校ということで、中学校と高校が同じ施設に併設されるような、そういったイメージの中高一貫教育校という、そういった形になるんだろうなと思います。
委員	ありがとうございます。 それから大学とも関係するところで、「学園都市の推進」のところで、18 ページの下のほうになるんですけれども、「大学に進学してきた学生に本市の歴史や文化、地域の魅力を体験してもらって本市への愛着心を育み」云々というところ、これはこれまでも何度かやってきたかとは思うんですけれども、全く新しいものをこれから始めるというようなイメージでよろしいでしょうか。
事務局	学園都市推進協議会というものが、米沢市と米沢商工会議所が事務局を務めており、大学関係者や高校、企業も含めて協議会を作っておりますけれども、その中で学生たちに対する様々な事業、取組をこれまでもやってきました。 数年前から、ホームタウン化という言葉が言われだしました。 以前からそういう考え方はあったんですけれども、そこがだんだん明確になってきて、ホームタウン化をしていこうということで、今学園都市推進協議会でいろんな事業に様々改良を加えながら取り組み、大学生に米沢市に残ってもらいたい、あとは外に出ていっても米沢市を応援してもらいたい、そういう気持ちを持ってもらいたいというところを主眼に活動してきたところであります。
委員	そうすると、これまでやってきたところを改善していくといったイメージですか。
事務局	改良して、強化していくものです。
委員	そうすると、新たに加わったというものではないけれども網掛けになっているということですか。
事務局	この戦略の中で掲載してこなかった部分なので網掛け表記としています。
委員	ちょっと気合いを入れるぞというイメージでいいですか。
事務局	若年層の流出対策ということで今回捉えているので、既存の事業ではありますけれども、さらに強化していこうと計画しています。
委員	分かりました。ありがとうございます。 あと、最後に参考までに聞いておきたいんですけれども、その次のページ、19 ページで、郷土愛の醸成ってすごく大事ななと思っておりますけれども、これをどのようにすると、目標の、例えば小学校82%とか中学校70%とか数字で上がっているんですけれども、具体的に何かこういうことやりますというのは、もう決まっていることがあるんでしょうか。それとも、これから何か新しいことを始める感じなんでしょうか。 市役所の組織でも魅力推進課という新しい課ができたこともあって、そういうのと絡んでいるのかも含めて、どういう対応をしていくのか知りたいです。
事務局	新しいことを教育指導部としては現在考えておりません。

ただ、これまでと同様に、例えば中学生ですと、米沢市の学習「米沢学」を中学1年生で学習したり、中学2年生で米沢チャレンジウィークという企業体験をしたり、そういった総合学習の中で、米沢の良さを自分で実感していくという体験活動を現在まで取り組んでまいりましたので、そういった取組を継続していきます。

小学生については、「わたしたちの米沢」ですとか、郷土学習、上杉鷹山ですとか、様々学習していることをさらに継続していきます。

小中9年間の歩みの中で、学びの中で、米沢の良さを実感させていくということを、そのまま継続していきたいと考えています。

数値目標につきましては、全国学力・学習状況調査の中の質問項目にありますので、そちらの数字を掲げているということでございます。

私からは以上です。

事務局 補足ですけれども、魅力推進課については企画調整部が担当になっています。

魅力推進課では、米沢の魅力、自然や歴史、文化といった様々な魅力的なものが米沢にまだまだいっぱいあるんだろうなと思いますので、そういった魅力を対外的に発信していくということはもちろん、やはり米沢市民にもしっかりとそういったものを分かっているという努力をしていきたいなと思っていて、そうやって地域に対する誇りを皆さんに持ってもらえれば、子どもたちも当然郷土愛というふうに繋がっていきますので、そういったことで取り組んでいきたいなと思います。

委員 ありがとうございます。ぜひ頑張ってもらえればと思います。

- (3) 米沢市人口ビジョン（案）及び米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（案）の
パブリック・コメントの実施について
(資料3により事務局から説明)

(委員からの意見はなし)

事務局 この戦略については非常に重要な戦略だと思っていまして、いろんな分野に関わる計画ですので、ぜひ多くの意見をいただきたいです。

この計画についてはたくさんの御意見をいただきたいなと思いますので、委員の皆さんから、ぜひお声がけいただいて、いろんな意見を出していただければなと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

委員長 私も大学の法学部の最初の行政法の試験が、パブリック・コメントについてという問題でした。

非常に意味のあることだと思いますので、委員の皆さんも御検討ください。

- (4) 米沢市公共施設等総合管理計画のフォローアップについて
(5) 今後の財政見通しと推計方法について
(資料4及び資料5により事務局から説明)

委員 総合戦略にはインバウンド施策の推進ということで、「インバウンドインフルエンサーや国際交流員を活用した情報発信に取り組み、台湾をはじめとした誘客プロモーションを推進します。」というふうに、網か

けであったんですけれども、力を入れていただきありがとうございます。

それで、今後のためにも、経済効果が高くなると考えておりますが、これは今後の財政見通しのどこら辺に入るんでしょうか。

どこに入るのかよく分からないので、説明お願いできますか。

事務局

今おっしゃられたのは、デジタル田園都市構想総合戦略（案）の中の施策ということでしょうか。（「そうです」の声あり）

こちらにつきましては、財政見通しの中では、ちょっとこちらは案の段階でありましたので、踏み込んではいないところです。

今あります総合計画の中で、実施計画などで盛り込んだ資料、そういったものを中心に今後の事業として盛り込んでおりますので、大変申し訳ございません、そちらまでは算定した結果というわけではございません。

委員

ありがとうございます。

この度の市のほうから予算としていただける支援のほうなんですけれども、目標額よりも少ないと会長が話をしていたので、それでどうだったのかなということで聞いてみました。

ありがとうございます。

【4 閉会】

省略